

令和3年10月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和3年10月定例教育委員会会議録

1 開催日時、会場

令和3年10月25日（月） 9時30分～12時00分
千手中央コミュニティセンター ホール

2 出席

渡辺正範教育長、庭野三省委員、浅田公子委員、廣田公男委員、渡邊奈々子委員

3 説明のため出席した者

子育て教育部長（渡辺正彦）、文化スポーツ部長（金澤克夫）、教育総務課長（富井陽介）、学校教育課長（佐藤研一郎）、指導管理主事（細木久成）、生涯学習課長（樋口具範）、文化財課長（石原正敏）、スポーツ振興課長（庭野日出貴）、情報館長（笠原実）、森の学校キョロロ副館長（小海修）

4 会議の内容

（1）会議録署名委員の指名

署名委員：浅田委員、廣田委員

（2）報告事項

① 共催・後援等報告

・資料のとおり

② 報告第1号 十日町市小中一貫教育及びコミュニティ・スクール推進協議会委員の委嘱について

渡辺教育長

・事務局の説明を求めた。

佐藤学校教育課長

・資料に基づき説明

廣田委員

・この推進協議会の所掌事項に「提案」とあるが、過去に何か重要な提案があって、改善したようなことはあるか。

佐藤学校教育課長

・推進協議会の共通目標として自己有用感の育成を掲げている。その自己有用感育成の取組を3年間通してやり、昨年、検証させていただいた。当市では、小中一貫教育の中に自己有用感を高める取組を、引き続き進めていくべきであるご指摘をいただき、今後も取組を進めていく考えである。

廣田委員

・自己有用感は、小中一貫教育とはあまり関係ないように思うが。

佐藤学校教育課長

- 自己有用感は、小中一貫教育の中の大きな柱になっている。子供たちにアンケートを取っているが、子供たちは何か人の役に立ちたいという思いが高い。しかし、自分は誰かの役に立っていますかというようなアンケートでは結果が低く、これが十日町市の子供たちの実態だと考えている。そこで、この自己有用感を高めることが、課題である学力の向上につながったり、また、いじめ、不登校の減少につながるのではないかと考えており、一つの柱として取り組んでいる。

(以上の質疑のあと了承した)

③ 報告第2号 十日町市第2次学区適正化方針に関するアンケート調査の集計結果について

渡辺教育長

- 事務局の説明を求めた。

富井教育総務課長

- 資料に基づき説明

廣田委員

- 資料の量が多く、説明にも時間がかかるので、資料をコンパクトにできないか。それに関連して、アンケートには集計と分析があり、これは集計しただけで、まだ分析まで行っていないと思う。例えばその一つの例が、基本方針についてはおおむね賛成が多いが、個別の学校になると統合不要がある程度多いというのは、それはどう考えるのかというのがどこにもない。まず、そういったところを解明する必要があるのでは。

渡辺子育て教育部長

- アンケート結果を総括すると、教育委員会で令和元年度に出した基本方針は、小学校は約9割、中学校では8割以上の方が、この方針に賛成していただいた。ただ、自分の学校となると、大きい学校では統合は不要だと回答をしている人が多くて、小さいところはそれなりに必要性を感じていると読み取れる。ただ、中学校では規模に関係なく学区の再編に反対が多いと分析している。

庭野委員

- この結果を読んだの、私の意見となるが、まず小学校の場合、全体を通して言えることは保護者の理解が浅いと思う。人数が多いと社会性や協調性が学べ、切磋琢磨できると、これはほとんどないと思う。今の子供というのは、集団の中で切磋琢磨するより、自分の仲よしがいいというのが現状である。一方で小さい学校は学年ごと、全校活動が多くなるのは当たっている。ただ、複式に対して否定的な部分があり、これは仕方ないと思う。

問題は中学校である。旧川西、旧松代、旧中里は再編の方針だが、再編に対する反対が多かった。結局、旧十日町市が川の向こうばかり中学になるということで、不公平感がある。

それから、学校の存続、地域の発展、これは本当に微妙なところで、私も昨日群馬県の中之条町でピエンナーレ、2年に1回の大地の芸術祭を見てきたが、いい校

舎が閉校して、そこの教室にいろんな作品が並べてあったが、これは時代の流れだ
と思う。幸い十日町は大地の芸術祭をはじめ、空き校舎の活用が恐らく全国でもか
なり進んでいる地域だと思う。

児童生徒数が減ることに対して嘆かないで、もっと前向きにいくべきでは
ないかと考える。

浅田委員

- ・回答が膨大な量で、まとめられるのも大変だったと思うが、私自身もちょっと消化
し切れないところがあり、もうちょっとよく読み込んでいきたいと思う。記述は本
当に個人個人のご意見がお聞きできたのはよかったと思うし、またいろんな意見が
あると思うが、理解をしてもらうということがこれから必要になると思った。

渡邊委員

- ・これを地域自治組織に周知した後、地域で醸成されて、自分たちの今後の未来をみ
んなでつくり出していくという方向になれば、アンケートは非常に有効だったと思
うし、これだけの量のアンケートの集計は大変であり、いいきっかけにしてもらい
たいと思う。

(以上の質疑のあと了承した)

(3) 議決事項

- ① 議案第1号 令和3年度（令和2年度実績）十日町市教育委員会事務の管理・執行
状況点検・評価報告書の承認について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

各担当課長

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・「(1) 学力の向上」の評価であるが、偏差値50を維持していれば努力の成果が認
められているので、今度は50でいいのではないかというようなご意見だと思う。
これは専門的なご意見だと思うのだが、この意味はどういうことか。要するに市側
で53以上というのを目標にしていたのを、50でいいという意味はどういうことな
のか。

佐藤学校教育課長

- ・小学校が目指す53という偏差値について、現在50ぐらゐの状況の中で、53まで
すぐ上がることはないだろうとのご指摘から始まった意見である。そんな中で全国
を50として、当市で50前後であると考えればそれだけの成果が上がっていると捉
えていいのではないかとご指摘であった。

廣田委員

- ・もう一点別の意見になるが、例えば学力の向上のところ、NRTの標準偏差値の
平均を数字で表しているところはいいが、指導力向上を図るとかというのは学力を向
上するための手段であって、これ自体が目標じゃないと思う。例えば指導力が向上
しても学力は必ずしもそれに比例して上がるとは限らない。そういう意味でいう

と、コミュニティ・スクールの推進のところで、コミュニティ推進を図るために何々をするというのが目標のところに書いてあるが、推進を図るのが目標であって、それを図るために何々をするというのは手段なので、これは目標の設定としてはちょっと違うかなと思う。そういったところを検証していただいて、次回に生かしていただければと思う。

特に目標が達成されていないところ、例えば学力の向上については目標に対して逆に下がっているというような事例があるし、それからいじめ、不登校についても減少させるのが目標なのに逆に増えているということがあるので、その辺は目標や取組が本当にいいのか、そもそも目標設定がちょっと曖昧な感じを受けるので、その辺を後で精査お願いしたい。

目標も取組も分かりやすく示してやらないと、みんなが共有して取り組めないと思うので改善をお願いしたい。

(以上の質疑のあと決定した)

5 その他

① 11月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

② 次回及び12月の教育委員会の開催日時

- ・11月定例会 11月17日（水）9時30分から開催することを決定した。
- ・12月定例会 12月24日（金）14時30分から開催することを決定した。

以上で、12時00分に渡辺教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記